

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175200104		
法人名	有限会社 エポック		
事業所名	グループホーム ひかり館		
所在地	網走郡女満別中央37番地23		
自己評価作成日	令和2年1月22日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「個性を尊重する・感情豊かな生活・心身ともに健やかな生活・想像、創造する・地域との交流を図る」を基本理念にサービスの質の向上を目指しています。
 隣のぞみ館と外出行事や、レクリエーション等と一緒にすることにより他者との交流の場を広げ視野を広げたサービス内容となっております。
 また、日常生活の中で体操を日課にしたり家事手伝いを積極的に入居者様にお願いする事で、日々の生活を活気あるもにして頂けるよう支援しております。
 行事食や、館内の飾りもので四季が感じられるよう工夫しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	nhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0175200104-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示する事により、共有し理念に基づき職務に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には近所の方や自治会長さんに来ていただいたりと地域の方々との交流の場を広げる努力をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に、地元の中学生や高校生にボランティアに来て頂き、認知症に対する理解や支援方法について身近に感じていただけるよう努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2カ月に1度の定例会議を継続する事により、活動報告や様々な議題について話し合いサービス向上に活かしております。参加者の増加を目指し、消防署、警察署等への協力もお願いしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場担当者にも、毎回運営推進会議等の出席をお願いするとともに、活動内容を把握していただき協力をお願いしております。運営に関する確認はその都度させて頂いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間帯を除いて開放しており自由に出入りしております。身体拘束は、定期的に禁止事項を確認することで、身体拘束をしないケアの実践の努力をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、拘束の施設内研修を行い、資料の読み合わせや事例に添った検討会を行い意見交換と、虐待拘束の知識の再確認を行い防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度を活用し支援に努めていたが、後見人とのかかわりがうまく持てませんでした。現在は自立支援事業や成年後見人制度を活用する機会はないが、今後も知識を深め機会があった時にはスムーズに活用できるようにしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申請の際は、説明する側も内容を熟知し十分な説明・納得を頂けるよう努力しております。また、不安や疑問がいつでも解決できるよう、声かけしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	約2か月に1度の運営推進会議の中では、主にご家族様からの意見交換を行い、職員をはじめ役場や近隣居宅関係者等へ知っていただく機会を設けています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者が出席する月1回の定例会議の中で、職員の意見・提案を聴く機会を設け反映に繋げています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会労務士に相談し、各自が向上心を持って働けるよう給与水準や労働時間等をその都度調整しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度以上の外部研修を目標に実務経験に活かすスキルアップに繋げる機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に運営推進会議に近隣の特別養護老人ホームや居宅支援事業所のスタッフに出席をお願いし、意見・情報交換をさせていただく事により、サービスの質の向上を目指しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な事本人の訴えにまず耳を傾けるようにしています。また、一人一人の入居者様が安心につながられるよう常にスタッフで話し合いの場を設けるとともに、安心した生活に繋がるようご家族様とも共有し解決に向けて取り組む努力をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の面会時には必ず声かけし入居者様の現状をお話する事で、要望等を気軽にお話しして頂ける関係を気づけるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談やアセスメント、日常生活の中でご本人及びご家族から、不安に思っている事等聞き取る事により、必要なサービスを見きわめケアプランに繋がられるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒のテーブルでの食事、ソファでの会話、レクリエーション、一緒に家事手伝いを等を通して共存関係を築く努力をしております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の通信で定期の受診結果やご本人の写真を交えて離れていてもお互い身近に感じられる関係を築けるよう支援しております。また、ひかり館での生活の様子をお伝える事により、ご家族様と情報を共有し、不安に思うことなどご家族様と一緒に考え取り組んでいけるよう支援しております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居年月が長く、馴染みの場所や人とのかわりが薄くなってきているのが現状です。ご家族様の面会も徐々に減少している為、入居者様の現状を細かくお伝えする等、関係が途切れないよう支援に努めております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席、ソファの位置を考えて入居者様同士の関係が良好に保たれるよう支援しております。また、その中で楽しく会話、レクリエーションが行われるよう支援に努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に入院退去された入居者様には、時々お見舞い申し上げたり、退去時には何かあったらいつでもご連絡を…という声かけは必ずさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話からでも、一人一人の意向や暮らし方を聞き出せた時には、それに向けて支援できるよう、常に心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には馴染みのある物を置いて頂く事や、今までの生活環境をご本人やご家族様から聞き把握に努めております。また、以前からの生活習慣などが継続できるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日常の過ごし方、起床時間や食事時間等の現状の把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回程度、会議の中で介護計画書の目標を確認しモニタリングしております。3か月に1度のアセスメント、評価を行い介護計画書の更新及び通信でご家族様に入居様の現状をお伝えする事により意向を聞き取り易くしながら総合的に職員で話し合いケアプランに繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録に介護計画書の目標を記載しそれに元基づいた支援を中心にサービス提供できるよう確認できるようにしております。さらに、日常の支援で大切な事や取り組みたい事等をさらに、申し送りに記入し、職員全体で情報交換できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その時のニーズに対応し柔軟にサービス提供できるようなぞみ館にも協力仰ぎながら、取り組んでいるが、職員不足から対応しきれないケースがあるのが現状です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源の活用とご本人の心身の力の発揮に繋げる支援は、努力段階です。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診が入居後も継続できるよう支援するとともに、町外の病院への受診はご家族様や社会福祉協議会の有償車両の協力を得ながら支援しております。また、往診を利用して入居者様に対してもきめ細やかな情報提供を行い、健康状態の維持向上に努めております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回の訪問看護の際に、健康状態の把握はもちろん、気になる症状などを積極的に相談し、受診や助言を頂き入居者、ご家族様への安心に繋げて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、ご家族様の了承を得てお見舞いや電話等で医療従事者から情報を得ることで、退院後の受け入れの準備をさせて頂いておりますが、地元の病院にケースワーカーがない為、情報が得にくいのが現状です。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、終末期のあり方について口頭で聞き取りしております。現在、ひかり館での看取りを希望している入居者様はいませんが、ニーズがいた場合、地元の病院では現在看取りの対応はしていないのが現状です。ニーズがあった場合は近隣の社会資源に積極的なアプローチが必要と思われれます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練までは行っておりませんが、マニュアルを周知徹底する事により、現在は急変、事故発生時の対応は円滑に行われています。また、夜間などの急変等の対応については、定例会議で確認し緊急時に備えております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は定期的に行っております。水害等の避難は地形的にひかり館にとどまった方が良いのでは？と避難訓練の際にお話し伺っています。火災避難訓練の際には、地域の皆様にもご協力頂いております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保は、毎月の会議の中で確認しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々声かけし、日常生活の中で入居者様が思いを表わせるような環境作りを心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居以前の生活状況や習慣等をご本人、ご家族からも情報を得て柔軟に対応できるように心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院の利用を継続して利用できるよう支援したり、衣類の交換時には一緒に衣類を選ぶなど、身だしなみやおしゃれを意識して頂けるよう支援させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や、行事食に力を入れて提供させて頂いています。片付けも積極的に声かけし、お手伝い頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量及び水分量が的確に確保できるよう、支援させて頂いています。適量が摂取できない時は、ご家族様と相談し、食材を工夫したりゼリーで水分量を確保する等しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声かけ支援により口腔ケアは行って頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な入居者様には、定期及びその方のタイミングに合わせた声かけでいつまでもトイレで排泄できるよう支援させて頂いています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人様のご意向に合わせて、毎日乳製品を摂取して頂く等しております。また、下剤の服用についても、申し送りを強化しスムーズな排便が出来るよう支援しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否された場合は、不穩に繋がることも多く別な日に入浴日を設定しています。また、排泄の際に身体が汚染された時も、入浴日に関わらず入浴して頂く事により、身体の清潔保持及びご本人の快適さに繋げております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣をもちろん、その時々状況に応じて、休息安眠に繋がるような環境を提供しております。また、寝具も季節に合わせて良眠できる物を使用して頂くよう声かけ支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬が変わった時などは、職員間で周知徹底を行っております。また、嚥下状況を考慮し薬剤師に相談し粉末するなどして服薬して頂く支援を行っております。服薬介助時は、声に出して入居者様の名前を確認し誤薬のないよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様同士が、楽しく会話したりできる環境作りに努めております。家事のお手伝いをして頂く事により、役割を担う事に喜びを感じて頂いております。また、季節感のあるちぎり絵の作成をお手伝い頂くなどコミュニケーションを取りながら作品を作り上げられるようご支援させていただきます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の要介護の上昇と、入居者様の外出に対する意欲の低下もあり外出が困難になっているのが現状です。その中でも、外食ツアー等企画しておりますが、外出に関してはもっと柔軟に対応できれば…と模索中です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、近所のスーパーや病院の売店(受診時)で買い物を行うことができます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の申し出があれば、ご家族に電話したり入居者様にいつでも電話をかけていただけるような環境作りをしております。また、入居者様がご家族様に確認してほしいことがあっても極力、ご本人様からお電話していただけるよう支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて温度管理を行い、観葉植物を置く等して居心地の良さを考慮した環境作りをしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で、休息の時間を過ごしたりテレビをみたり音楽を楽しんだりできるよう支援しております。また、隣ののぞみ館とも自由に行き来できるような環境を提供しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、なるべく入居以前に使い慣れた家具等の利用をお勧めしておりますが、配置などはご家族、ご本人におまかせしております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に個人の身体能力に合わせて、車椅子の自走や、歩行器の使用が安全に行われるような環境作りを心がけております。		